

事業実績書

事業名		干し柿づくりで楽しみながら、地域の景観の向上
場所		沼津市全域(主に愛鷹地域)
期間		令和 2 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日
	日程	実施項目・作業項目
事業 内 容		※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。 イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など)
	4/1	干し柿同好会への補助金申請をした。参加者 3 名
	4/2	4 月度打ち合わせ。会報「干し柿通信」第 1 号を発行した。参加者 3 名
	4/13	保健所へ干し柿を売り出す場合を問合せする。参加者 2 名
	4/15	柿畑にてフキ・アシタバ・キクラゲを採取。予定作業の摘蕾は背が高すぎてできない。参加者 2 名
	4/21	5 月度打ち合わせ。四つ溝柿(渋柿)の実生苗 2 年物入手。参加者 2 名
	5/27	柿畑にて発芽苗を掘り上げポット植えとする。参加者 1 名
	5/31	柿畑の下草刈りと柿苗の世話をす。予定作業の摘果は背が高すぎてできない。参加者 1 名
	6/7	長岡町の次郎柿の手入れをする。ビワ収穫する。柿農家と親しくなる。参加者 2 名
	6/10	6 月度打ち合わせ。東椎路の民家でビワを収穫、剪定、実生苗の採取を行う。参加者 3 名
	7/10	柿畑にてキクラゲ採取、柿の摘果を行う。参加者 2 名
	7/13	宮崎大学農学部教授に柿の挿し木について問合せする。参加者 1 名
	7/16	7・8 月度打ち合わせ。柿畑の下草刈りと柿苗の採取をする。参加者 2 名
	7/17	柿の台木について県果樹センターに問合せする。参加者 1 名
	7/22	ホームセンターにて甘柿「太秋」苗を購入。来年度以降の穂木とする。参加者 1 名
	7/24	柿の皮むき器自作中。参加者 1 名
	7/29	キウイ枝を挿し木するも失敗。参加者 2 名
	9/15	9 月度打ち合わせ。松長にて甘柿採取する。参加者 3 名
	9/21	柿畑の下草刈りをす。参加者 1 名
	10/2	干し柿用吊るし道具・吊るし金具を購入。参加者 1 名
	10/12	愛宕柿(渋柿)入手、干し柿とする。参加者 2 名
	10/15	柿畑 1 回目収穫(約 5Kg)する。市役所より見学あり。参加者 3 名
	10/20	柿畑 2 回目の収穫(約 5Kg)。参加者 2 名
10/23	1 回目収穫の干し柿出来上がり。会員にサンプルとして配布する。参加者 10 名	
10/27	長岡へ収穫に出かけるも次郎柿 3 本とも全て落下し全滅。近所の柿農家も不作とのこと。次に牧の郷へ出向くも、こちらの四つ溝柿 5 本全滅。参加者 1 名	

	<p>10/29</p> <p>10/31</p> <p>11/3</p> <p>11/5</p> <p>11/6</p> <p>11/10</p> <p>1/26</p>	<p>柿の皮むき器を自作中。参加者1名</p> <p>おいしくない不完全甘柿の干し柿にチャレンジ。参加者1名</p> <p>長岡柿農家にて四つ溝柿 40Kg 購入。皮むきと干し作業を行う。参加者5名</p> <p>不完全甘柿の干し柿が出来上がった。ほんのりとした上品な甘さと軽いサクサク感でとても珍しい食感。例えてみると甘さは和三盆、サクサク感は細いシナチクとでもいうか。来年はもっと仕込んでみる。参加者2名</p> <p>松長で柿の収穫作業。4種類 6kg 採れた。参加者4名</p> <p>柿の皮を干して売ることを考える。参加者2名、干し柿をサンプルとして会員に配布。</p> <p>伊豆長岡町花坂、渡辺氏柿園場にて剪定講習会を行う。講師；渡辺和夫氏(柿農家) 10時～12時 渡辺氏柿園場にて剪定実技、 1時～2時半 柿栽培・薬剤など講話。参加者3名</p> <p>3/14 昨年から保存しておいた四つ溝柿の種をビポットに蒔いた。3年後に甘柿の台木として利用予定。参加者1名</p> <p>参加者合計延べ72名/年</p>
事業効果		<p>※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を具体的な数値を用いて記載してください。</p> <p>① 「地域共通の話題としてまちづくり活動を行う」ことについて。 令和2年1月～3月にはいろいろ計画して準備を行っていたが、新型コロナウイルスの影響により人に会うことが難しくなり、新規会員募集どころか現会員同士で会うこともできなくなった。必然的に近所同士で活動せざるを得なくなった。</p> <p>② 「柿の保存技術と食糧としての有効利用」について 先進県長野県より吊るし道具、吊るし金具の導入により合理的に干し柿生産が出来るようになった。(写真2枚添付)</p> <p>③ 「樹木管理」について。 春から初夏の長雨により害虫と病気が増え、花が落ち実が成らず非常に不作の年となった。人が集まらず手不足と経験不足のため管理も満足にできなかった。</p>
自己評価		<p>※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。</p> <p>◎令和2年度は新型コロナウイルスのため満足のゆかぬ結果となってしまった。</p> <p>◎吊るし道具等の導入により干し柿生産技術が飛躍的に向上した。</p> <p>◎干し柿保存については冷凍保存が有効と判断で来た。</p> <p>◎皮むき器は四つ溝柿を利用しているため、さらに研究が必要となった。</p> <p>◎干し柿を原料とする菓子生産については、設備的に保健所の認可が必要なため次年度に繰り越しとする。</p> <p>◎会報を発行した。</p> <p>◎樹高があると剪定や収穫が難しいと実感した。</p>
今後の活動予定		<p>※ ファンドを利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。</p> <p>◎令和2年度の方で必要道具・材料が揃えられたので、令和3年度には対人関係のPRと害虫・病害対策に重点を置き、会の運営を行う。</p> <p>1. 会の目的のひとつである「地域の景観の向上」を図る件について、見知らぬ家の柿の木を管理するためには、その持ち主との信頼関係を良好に保つことが重要となります。このコロナ下においては飛び込み活動ではなく、会員や知人のつてをたどり一人でも多くの方々に当会の活動を知ってもらおうべく広報活動に努めます。</p> <p>2. 干し柿生産の件について、ポイントは①最適な生柿の生産と②干す方法にあります。最適な生柿の生産は柿農家からアドバイスを受け実行してゆきます。②の</p>

	<p>干す方法は今年度のやり方でほほうまくゆきました。</p> <p>3. 長期保存方法について、冷凍保存が最適かとは思いますが、次年度に常温保存についてもテストをして行きたいと考えています。</p> <p>4. 菓子製造について、出来上がった干し柿に砂糖をまぶしただけでも保健所の管轄になるそうです。なので菓子を売ることよりも、おいしい菓子を作ること</p> <p>5. 会の存続と活動拡大には資金が必要です。出来た干し柿を売って資金に充てることになり</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------